

外遊びのすすめ 子どもが主体の遊び場づくり

第3回 「自由な遊びを”冒険遊び場づくり”」

神戸女子大学家政学部
家政学科 教授

梶木 典子

秋のとてとも天気の良い休日に、神戸市内の森林公園で子ども向けの遊びワークショップを行いました。素材(木の枝、葉っぱ、ドングリ、まつぼっくり、ダンボール、絵の具やクレヨン、布や毛糸など)を用意し、あとは大学のゼミ生が数名でボランティアとして一緒にいるというものです。

子ども達は”何か楽しそう!”と思って寄ってくるのですが、初体験には戸惑い固まってしまう。そして、「何をして遊んだらいいの?」や「これをここに使ってもいいですか?」等と聞かれることも多いのです。「何でも自由に使って、自由に遊んでいいのよ」とアドバイスをすると、周囲の状況を眺め、そのうち自分の関心のある物に手が伸び、遊びが始まり広がっていきます。

夢中になる子ども達の姿を、一緒に来ている保護者から「外でもこんなに集中して遊ぶんですね」という感想を寄せられます。

前号で述べたように、子ども達にとって公園は禁止事項が多く、学校での学習時間も長くなり、細切れの時間しかありません。子供社会でのタテ関係も難しくなり遊びの伝承がされにくくなっています。

ところで、子どもたちが自由に遊ぶことのできる『冒険遊び場(プレーパーク)』*という遊び場をご存じでしょうか。そこは、子どもがのびのびと思いきり遊べる遊び場で、“やりたい”と思ったことがなんでもできるように、できる限り禁止事項をなくし、自分の責任で自由に遊ぶことを大切にしている遊び場です。



穴を掘って遊ぶだけでも夢中です

1970年代の後半から始まった活動は全国各地に広まり、現在では400箇所以上・県内に43か所に増えています。開催は、常設から週に数回、または月に数回、不定期と地域の実情に応じて運営方法や活動には違いがみられます。開催時にはプレーリーダー(プレーワーカー)と呼ばれる遊びを支援する大人が駐在していますので、従来の都市公園では禁止され体験で出来ないような水遊び、泥んこ遊び、木登り、穴掘り、火を使った遊び等も可能となります。

プレーリーダーによる手作りの滑り台やロープ遊具は、作り込まれ過ぎていないので、子どもたちがチャレンジしたり、工夫できる要素が多く、「やった!できた!」という達成感にもつながります。またプレーリーダーとおしゃべりをするだけや、何もしないという選択肢もあります。

このような冒険遊び場は、“子どもに豊かな遊び環境を!”という熱い思いを持った地域住民の運営により保障されています。地域の大人たちが当事者として子どもの遊ぶ環境に危機感を抱き、子どもが主体となっていくいきと遊ぶことのできる場を実現しようとする思いは共通しています。

遊び場づくりはまちづくりにもつながる活動です。日常生活の中に、夢中で遊ぶ子どもたちの姿や、遊ぶ声が聞こえ、人々の笑顔があふれるそんなまちであってほしいです。

*『冒険遊び場(プレーパーク)』について

[日本冒険遊び場づくり協会]ホームページ、またはfacebookで都道府県別情報発信をしています。



森の中で大学生と木登り

明石城築城400周年記念協賛事業
明石市制施行100周年記念事業

2019 ひょうごまちなみ ガーデンショー in 明石

開催報告



9月21日より29日までの9日間、ひょうごまちなみガーデンショーin明石が開催されました。

今年のテーマ「花と緑で祝う明石城400周年」にちなんで、明石公園と明石駅周辺やサテライト会場(明石市立花と緑の学習園)が例年以上に花と緑で彩られました。

明石駅コンコースでのオープニングセレモニーからスタートし、県内農業系高校11校が作成したアグリハイスクールガーデンの展示、400周年を記念した伝統園芸展示や、各種体験教室、キッズ花のファッションショーなど様々なイベントが開催されました。

園芸用品販売や飲食テナントもあり、来場された皆様に大いに賑わいました。



アグリハイスクールガーデン
人気投票第1位 県立但馬農業高校



キッズ花のファッションショー

今年の「花と緑のまちづくりセミナー&表彰式」は、最終日にあかし市民広場(パピオスあかし2F)で開催されました。

宮本里美さんの講演「GARDENS LIFE」では、季節ごとの花やグリーンと背景の建物、おしゃれなガーデンアイテムを組み合わせた、豊かなガーデンライフを美しい画像で紹介していただきました。

和田博幸さんの講演「さくら咲く 人で咲く」では、日本人のさくらとの関わりや、桜を守る活動など、日本全国のさくらから身近な明石公園のお話までを伺いました。

260名を超える参加者の方々が、熱心に聴き入っていました。

最後のガーデンコンペ・ひょうご表彰式では、各賞受賞作品が大画面に映し出され受賞者に祝福をおくられました。



花と緑のまちづくりセミナー



ガーデンコンペ・ひょうご表彰式

ガーデンコンペ・ひょうご 2019

兵庫県知事賞受賞作品

ひょうごまちなみガーデンショーin明石のメインイベントである「ガーデンコンペ・ひょうご」には、469点の作品が集まりました。

各部門の最優秀作品と、記念の年にちなんだ特別賞を受賞された作品をご紹介します。(敬称略)



《まちなみガーデン》
セブンスターズ
(豊岡市)

ガーデン部門

《寄せ植え》
越中 敦子
(朝来市)



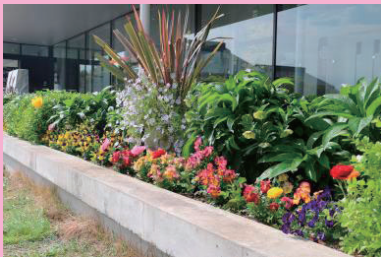
《ミニ寄せ植え》
宿南 安枝
(養父市)



《ハンギングバスケット》
吉川 美沙
(大阪府河内長野市)



写真部門



《コミュニティ・職域緑化》
フラワーマイスター三木 (三木市)

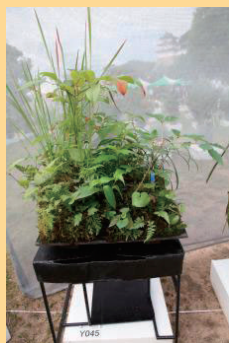


《家庭緑化》
諏訪 早苗 (姫路市)



《学園緑化》
段上小学校園芸美化
ボランティア (西宮市)

特別賞受賞作品



《明石城築城400周年記念》
藤井 卓美 (西脇市)



《明石市制施行100周年記念》
大村 日子 (明石市)

単鉢コンテスト 受賞作品



《花と緑のまちづくりセンター長賞》
岸本 和子 (伊丹市)

祝！第29回全国花のまちづくりコンクール 花のまちづくり大賞受賞

今年度の、全国花のまちづくりコンクールに、兵庫県から受賞された方々をご紹介します。

国土交通大臣賞

サンセット一宮花仲間 淡路市

活動のきっかけ

淡路景観園芸学校”まちづくりガーデナーコース”を受講したことがきっかけで、「淡路の景観を美しくしよう!」と仲間とともに2004年から沿道の空地で花壇づくりから花のまちづくりの第一歩を踏み出しました。「楽しみながらみんなでまちをきれいにしよう」を合言葉に、夕日の美しい海岸沿いのまちのシンボル”サンセットライン”の景観向上を目指し活動しています。



主な活動

2012年より道拡幅に伴う沿道花壇管理、2016年からも沿道公園緑地再整備に取り組みました。また、不法投棄防止も兼ねたプランター設置など、地域に密着した緑化活動を心がけています。

花壇づくりの留意点は、四季を感じられ、環境・地域機構風土との調和が取れたデザインを追求し、ローメンテナンスで負担も減らし、持続可能な花壇づくりに配慮しています。

活動15年目で、会員数20名 管理花壇4箇所合計約440㎡となりました。



今後の展開について

花壇をバックに記念撮影をされる方、オープンガーデンのリピーターの方も定着し、多くの花友ができた喜びと、花が結んでくれた縁に感謝しています。

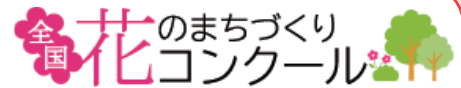
特に再生に着手した緑の道しるべ”郡家公園”では車を止めて花のある景観を眺める方々が急増して「すごいキレイになったネ」と大勢の方から賞賛していただきました。まちづくりの輪が広がり地域活性化の一助になればと願いながら、今後はさらにレベルアップし、花の少ない時期にも見栄えする植物を配するなど花壇づくり・維持管理に努めたいです。

※「全国花のまちづくりコンクール」とは

提唱：農林水産省及び国土交通省 設立：1991年

目的：国際花と緑の博覧会（花の万博・1990年・大阪市）の基本理念「自然と人間との共生」を継承して花のまちづくりを国民的な市民運動として普及、定着させること。

内容：全国各地で取り組まれている花や緑による景観づくりの優秀な活動を顕彰し、広く紹介する。4部門（市町村部門、団体部門、個人部門、企業部門）で行われている。



花のまちづくりコンクール推進協議会長賞〈企業部門〉

パナソニック洲本園芸部 洲本市

活動のきっかけ

1998年社の構内に四季折々の草花を花壇で開花させることにより、従業員の心を和ませ、働き甲斐のある職場となること目的に活動を開始しました。今年で22年、花壇も工場内や多目的ホール周辺の590㎡に広がりました。



主な活動

四季を通じ花壇に花が咲いているように、種まきや球根、宿根草など活用し、彩りを工夫し、多くの人に元気と楽しみを与えられる花壇づくりを心がけています。2002年からあわじオープンガーデンにも所属し、年2日の開催期間中は約100名が来訪。株分けなどで育てた苗や、社員食堂で出た生ごみの堆肥を配布しました。

今後の展開について

多目的ホール周辺と、県道付近の花壇は通年オープンにしています。四季折々に楽しんでいただけるように、部員は種まき時期や、育苗、栽培方法を工夫し、ますます地域共生と活性化の一助になればと励んでいます。



全国花のまちづくりコンクール審査基準

詳しくは、全国花のまちづくりコンクールHPへ

項目	審査の観点
快適な生活環境づくり	地域の緑を大切に育みながら、街並みの景観を損ねる散乱ごみや屋外広告などを積極的に整理するように心がけて活動し、潤いと豊かさを感じられる快適な生活環境づくりや風景づくりがされているか。
エコロジー	環境にできるだけ負荷をかけないような活動や身近な自然を大切にした取り組みが行われているか。
花による表現	まちらしさ（地域性）の演出に花がうまくいかされているか。また、地域の歴史的・文化的資産が花のまちづくりにいかされているか。
花のデザイン	花や緑が周辺の風景や街並み、建物と調和し、花壇の花の配置や色使い、季節の演出などがセンスよくデザインされているか。
栽培状況	花殻や生ごみなどを土づくりにリサイクルしたり、農薬などをできるだけ使わないようにしたりして、環境に配慮した取り組みがされているか。また、花の生育特性を考慮して草花を植え、花や緑が健全に生育しているか。
活動状況	花のまちづくりにおいて、住民（企業を含む）と行政のパートナーシップ、住民同士の連携などが図られ、共性の高い場所や地域に向けた場所での活動、オープンガーデンなどが実施され、それらが長続きし、発展するように取り組まれているか。
地域の活性化	活動によって地域の振興や活性化などにつながる波及効果が見られたか。



グリーンメッセージ



明石城築城400周年に想う ～公園っていいな！～

兵庫県参与（花と緑のまちづくり推進担当）
（公財）兵庫県園芸・公園協会 技術顧問

石原 憲一郎



剛ノ池周りはサクラの通り抜けに最適

兵庫県立明石公園は、今年で築城400周年を迎えた明石城の城跡を中心に整備されました。面積約55haにもなる広大な敷地内には、テニスコート・野球場や陸上競技場だけでなく、弓道場・自転車競技場などもあり、“日本さくら名所100選”・“日本の都市公園100選”にも選ばれる魅力的な総合公園です。

そこには、後世に語り継いでいかなければならない、明石城だけでなく公園として築かれた歴史があります。

明治4年（1871年）の廃藩置県で廃城となった後、城内の解体等の命令に対し、失業した士族たちが、櫓の保存と広大な敷地を公園化する運動を勧め、明治22年（1889年）、「明石公園保存会」を設立し、会員から集めた出資金を公園の維持管理に充てる「民営公園」が誕生しました。

まず、公園を創り守り育てるという大義を建て、市民や企業に広く呼びかけ集めた資金（今のクラウドファンディング？）を公園の維持管理費に当てる住民参画型の民営公園というのが素晴らしいです。

公園として利活用できている現在、士族が懸命に運動して残してくれたおかげであることを忘れてはなりません。特に、芝生広場は、年間を通して多彩な行催事が高頻度で行われ、開催中は、多くの来場者で賑わいまるでテーマパークのようです。

最近では、明石公園エリアと明石海峡エリアとで11月23日、24日に行われた全国B1グランプリ大会で約31万人の入場者を集めました。

年々テントなど仮設工作物の技術が進歩し、ニーズに対応した集客対策が可能となっており、建築物で建ぺいされていない、融通無碍に利活用できる大きな空間の存在の重要性を実感できます。

平成29年度（2017年）からは、公募により民間企業の知恵と資金を活用し集客効果を高め施設整備や維持・運営管理が行われるPark-PFI*の事例が急増してきました。これは、財政運営に苦しむ自治体にとって公園管理予算の縮減につながることもあり必然な動きと言えるでしょう。

しかし、かつての明石公園保存会に習い、上記の公募制度のように公園を長期間、独占的に使用する民間企業の資金力に頼る以外の方法も考えていかなければなりません。

まずは「公園っていいな！」という共通の思いに立って、公園管理者はもとより、公園を利活用するユーザー、さらに、地域住民など多くのステークホルダーが公園の価値を守るため先人に学び行動することが重要でしょう！



普段の芝生広場



B-1 グランプリが盛り上がる芝生広場

* Park-PFI

Park（公園）- **P**rivate（企業）
Finance（財政） **I**nitiative（主導）

都市公園内で、民間資金により飲食店などを運営し、園内の整備・改修も行う民間企業を公募により選定する制度

ほっと

●●● 相談員ニュース ●●●

センター屋上のコミュニティガーデン

緑の相談所長 城山 豊

明石公園にある花と緑のまちづくりセンターには屋上庭園があります。建物と同じ昭和55年に完成しました。山砂を積み上げた庭園で、近年施工されている薄層タイプではないので、一般の花壇と同様の管理が可能です。近年、庭園内のコニファーが大きくなりすぎて、施設の損傷や利用者に危害及ぶ心配が出てきたことや、つる植物が繁茂し過ぎたため、改修に取りかかりました。テーマはコミュニティガーデンのための見本園です。



秋の景色 オーナメンタルグラスが美しい

◆コミュニティガーデンに必要なこととは

ここでは、ボランティアで運営されることを想定して、次のような点を考えています。

- ① 労力を削減する。非耐寒性の多年生園芸植物をグランドカバーに利用し、特に夏の除草労力を削減する。
- ② 維持管理経費を削減する。宿根草や低木を中心に構成し、初年度以降の経費を減らす。
- ③ 効率的な管理するために、管理用通路を設置したり、管理者のスキルを高める。
- ④ 多くの人々に好まれ、何度見ても飽きないような刺激の少ないデザインとする。特に現代社会の要求に合わせて、安らぎを感じさせるオーナメンタルグラスを取り入れた構成にする。
- ⑤ 多様な植物を利用し、複雑な美しさを生み出すとともに、安定した生態系を生み出し、農薬の使用を控える。
- ⑥ その他、棘のあるもの、背丈以上の木本、繁茂しすぎる植物など管理しにくい植物は避ける。

◆取り組みの経過

2018年の春から屋上庭園いっばいに広がったつる植物を取り除き始め、12月には大木になり、傾いたコニファーを伐採し、空いたスペースを整備して改修をスタートしました。基本的な植栽プランは私が淡路景観園芸学校で研究、実践していた「エルフガーデン」※に基づき、低木、宿根草、一年草、非耐寒性多年草で構成しています。特にコミュニティガーデンのための見本園となるよう魅力のある植物の選定に努めています。

また、メンテナンスの技術講習とともに、観賞力を高める実習も行っています。現在、月1回平均参加者7名程度2時間2班の体制で美しく管理されています。

※エルフガーデンとは、筆者が兵庫県淡路景観園芸学校在籍時に実践していた花壇で、少ない労力で美しく管理できるよう、植物を選定し、自然風にデザインした花壇を命名したコンセプトガーデンの名称です。



初夏 風にそよぐ大麦の一種

園芸教室

令和元年度(令和2年) 1月～3月

実施日	開催時間	タイトル	講師名	定員【名】	受講料【円】	受付開始日
1/12 日	10:00～	◆ 明石公園の自然観察⑥	兼光 たか子	20	100	12/15
1/17 金	13:30～	植物栽培は土壌づくりから	吉倉 惇一郎	30	100	1/4
1/24 金	13:30～	バラの手入れ・剪定 <冬>	山田 益男	30	100	1/4
2/2 日	10:00～	◆ 明石公園の自然観察⑦	兼光 たか子	20	100	1/15
2/7 金	13:30～	花と緑で健康づくり ～園芸療法の理論と体験～②	金子 みどり	30	600	1/15
2/9 日	13:30～	◆ 「ひな祭りアレンジ」プリザーブドフラワーアレンジ③	松井 敏美	30	1,800	1/15
2/23 日	13:30～	◆ 原木きこ栽培にチャレンジ <しいたけ・なめこ>	仲 秀雄	30	800	2/1
3/1 日	10:00～	◆ 明石公園の野草を見る・楽しむ・学ぶ④	高野 哲司	20	100	2/15
3/8 日	13:30～	◆ 兵庫の山菜 「おいしい食べ方とエピソード」	清水 美重子	30	100	2/15
3/13 金	13:30～	家庭果樹の作り方② ～柑橘・キウイ・ぶどうの管理～	武久 正篤	30	100	3/1
3/15 日	13:30～	山野草の素晴らしさとやさしい栽培法	久山 敦	30	100	3/1

花緑博士へチャレンジ!!

◆印は小学生以上が対象です。
対象の教室を5回以上参加した
小中学生には、花緑博士の認定
証を進呈します。

写真は、30年度のひな祭り
アレンジ作品



★★お申し込み・お問い合わせ★★
花と緑のまちづくりセンター
TEL078-918-2405

受付時間は、9時から17時迄です
お申込み開始日より先着順 ※電話のみの受付



花と緑のまちづくりセンターだより 51号

- 令和元年12月23日発行 (年4回発行)
- 編集発行 公益財団法人兵庫県園芸・公園協会花と緑のまちづくりセンター長 堀本 祥子
〒673-0847 明石市明石公園1-27 花と緑のまちづくりセンター
TEL: 078(918)2405 FAX: 078(919)5186 Eメール: info_midori@hyogopark.com